

# 命をいただくことによって生かされているんだ

## 城東中人権新聞



人権いじめ防止委員会

### みいちゃんがお肉になった日 命をいただく

二学期中間テスト終了後、三年生有志による「みいちゃんがお肉になった日」命をいただく。徳島城東中学校版を鑑賞した。このビデオを通して毎日食べている肉に注目し、「命の大切さ」をテーマに「様々な仕事に就いている方々への感謝」「食べ物に粗末にしない」ということを考えてもらいたいとの想いで人権劇・人権ソングを制作した。ストーリーの主な内容は次の通りである。

### 徳島Ver.を作成

食肉センターに勤める坂本さんは、牛を解体してお肉にする仕事をしていきます。理解はしているのですが、どうしても好きになれなかったのです。ある日のこと、坂本さんは授業参観に行くことになりました。先生からお

父さんの仕事について尋ねられ、しのお君(坂本さんの子)は小さな声で「肉屋です。ふつうの肉屋です。」と答えるのでした。しのお君は学校の帰り際に先生に呼び止められ、お父さんの仕事がなければ誰もお肉を食べられない

い、お父さんの仕事は凄いな仕事だと教えられるのでした。しのお君のお父さんへの尊敬の眼差しに、坂本さんは辞めようと思っていた仕事をもう少し続けようと考えました。ある日、一日の仕事を終えた坂本さんが、ポニーに餌をやっているところへ一台のトラックがやってきました。助手席から女の子(風花)が、飛び降りてきました。

風花「あっ！かわいい！」  
坂本さん「少々怒った感じで」お！い！その女の子！危ないでないか！  
風花「おじさん！ごめんなさい！い！気をつけます！」  
風花は牛舎に急いで向かい、辛そうに牛(みいちゃん)を見つめ、話しかけていました。

風花「牛をなでながら」  
坂本さん「どしたん？」  
風花「おじいちゃんがなあ：みいちゃんが肉にならんかったらお盆が来る開ける)お父さん、今日はちゃんと仕事に行かんとあかんぞよ!!わかった!」  
坂本さん「おう！わかった!」  
しのお君「ほな、行ってきま〜す！」  
坂本さん「あ〜あ：言うてもた。子どもと約束したけんああ：(ふんぎりがついたような表情で)さあ、行くとするか！」  
坂本さんは、仕事場に着くと、まず、みいちゃんをそつと見にいきました。

坂本さん「みいちゃん：ごめんよ：。みいちゃんがお肉にならんとみんなが困るんよ。(みいちゃんの腹をさすりながら)：みいちゃん、じつとじてくれよ。暴れたりしたら、急所を外してしまいうけん。ほうなったら、よっぽど苦しい思いをするけん。じつとじてよ、みいちゃん、じつとじてよ。」  
とすると、みいちゃんは、ちつとも動きませんでした。

そのとき、みいちゃんの大きな目から、涙がこぼれ落ちてきました。坂本さんは、牛が泣くのを初めて見ました。  
後日、幸貴さんが食肉センターにやってきて、しみじみと言いました。  
後日、幸貴さんは、坂本さんを見つけて、  
幸貴さん「(大きな声で)坂本さん！この前はお世話になりました。少しだけみいちゃんの肉をお裾分けしてもうて、家で焼きましたんよ。うちの孫なあ：最初は食べんかったんやけどなあ「み



い、お父さんの仕事は凄いな仕事だと教えられるのでした。しのお君のお父さんへの尊敬の眼差しに、坂本さんは辞めようと思っていた仕事をもう少し続けようと考えました。ある日、一日の仕事を終えた坂本さんが、ポニーに餌をやっているところへ一台のトラックがやってきました。助手席から女の子(風花)が、飛び降りてきました。

風花「あっ！かわいい！」  
坂本さん「少々怒った感じで」お！い！その女の子！危ないでないか！  
風花「おじさん！ごめんなさい！い！気をつけます！」  
風花は牛舎に急いで向かい、辛そうに牛(みいちゃん)を見つめ、話しかけていました。

風花「牛をなでながら」  
坂本さん「どしたん？」  
風花「おじいちゃんがなあ：みいちゃんが肉にならんかったらお盆が来る開ける)お父さん、今日はちゃんと仕事に行かんとあかんぞよ!!わかった!」  
坂本さん「おう！わかった!」  
しのお君「ほな、行ってきま〜す！」  
坂本さん「あ〜あ：言うてもた。子どもと約束したけんああ：(ふんぎりがついたような表情で)さあ、行くとするか！」  
坂本さんは、仕事場に着くと、まず、みいちゃんをそつと見にいきました。

坂本さん「みいちゃん：ごめんよ：。みいちゃんがお肉にならんとみんなが困るんよ。(みいちゃんの腹をさすりながら)：みいちゃん、じつとじてくれよ。暴れたりしたら、急所を外してしまいうけん。ほうなったら、よっぽど苦しい思いをするけん。じつとじてよ、みいちゃん、じつとじてよ。」  
とすると、みいちゃんは、ちつとも動きませんでした。

そのとき、みいちゃんの大きな目から、涙がこぼれ落ちてきました。坂本さんは、牛が泣くのを初めて見ました。  
後日、幸貴さんが食肉センターにやってきて、しみじみと言いました。  
後日、幸貴さんは、坂本さんを見つけて、  
幸貴さん「(大きな声で)坂本さん！この前はお世話になりました。少しだけみいちゃんの肉をお裾分けしてもうて、家で焼きましたんよ。うちの孫なあ：最初は食べんかったんやけどなあ「み

い、お父さんの仕事は凄いな仕事だと教えられるのでした。しのお君のお父さんへの尊敬の眼差しに、坂本さんは辞めようと思っていた仕事をもう少し続けようと考えました。ある日、一日の仕事を終えた坂本さんが、ポニーに餌をやっているところへ一台のトラックがやってきました。助手席から女の子(風花)が、飛び降りてきました。

い、お父さんの仕事は凄いな仕事だと教えられるのでした。しのお君のお父さんへの尊敬の眼差しに、坂本さんは辞めようと思っていた仕事をもう少し続けようと考えました。ある日、一日の仕事を終えた坂本さんが、ポニーに餌をやっているところへ一台のトラックがやってきました。助手席から女の子(風花)が、飛び降りてきました。

い、お父さんの仕事は凄いな仕事だと教えられるのでした。しのお君のお父さんへの尊敬の眼差しに、坂本さんは辞めようと思っていた仕事をもう少し続けようと考えました。ある日、一日の仕事を終えた坂本さんが、ポニーに餌をやっているところへ一台のトラックがやってきました。助手席から女の子(風花)が、飛び降りてきました。

い、お父さんの仕事は凄いな仕事だと教えられるのでした。しのお君のお父さんへの尊敬の眼差しに、坂本さんは辞めようと思っていた仕事をもう少し続けようと考えました。ある日、一日の仕事を終えた坂本さんが、ポニーに餌をやっているところへ一台のトラックがやってきました。助手席から女の子(風花)が、飛び降りてきました。

い、お父さんの仕事は凄いな仕事だと教えられるのでした。しのお君のお父さんへの尊敬の眼差しに、坂本さんは辞めようと思っていた仕事をもう少し続けようと考えました。ある日、一日の仕事を終えた坂本さんが、ポニーに餌をやっているところへ一台のトラックがやってきました。助手席から女の子(風花)が、飛び降りてきました。

い、お父さんの仕事は凄いな仕事だと教えられるのでした。しのお君のお父さんへの尊敬の眼差しに、坂本さんは辞めようと思っていた仕事をもう少し続けようと考えました。ある日、一日の仕事を終えた坂本さんが、ポニーに餌をやっているところへ一台のトラックがやってきました。助手席から女の子(風花)が、飛び降りてきました。

『生命 (いのち) ~未来に向かって~』  
1  
何もかもが嫌になってひとりで泣いちゃう日  
消えてしまいたいと思う日  
そんなときは少し勇気を持って外の空気を吸ってごらん  
ア리가カいっばいお菓子を運ぶ  
鳥が大きな翼で空を飛ぶ  
みんな一日一日精一杯生きているんだ  
一歩前に踏み出してみよう  
道を間違ってもいい  
あなたが選んだその道は きっと明るい未来に向かって  
2  
いくつもの笑顔に包まれて生まれた私たち  
少しくらいつまづいたって大丈夫  
話してごらん ひとりじゃないから  
誰だって何度も壁にぶつかるし  
生きたくたって生きられない人もいる  
今はうまく笑えないけど きっと笑える日がくる  
一歩前に踏み出してみよう  
生きていたら嬉しいこといっぱい巡り会えるよ  
今日も生命 (いのち) がある限り精一杯生きよう



人権ポスター



人権ソング



表彰式

## 二作品が教育長賞

◎令和三年度徳島県自作  
視聴覚教材コンテンツ  
最優秀賞受賞  
(動画教材部門)

城東中生、人権劇と歌制作  
命や食の大切さ伝えたい  
牛舎口ケ交えた動画披露  
令和三年十月十四日付 徳島新聞

いちゃんのおかげで、みんなが暮らせよんぞ！みいちゃん、ありがどうって言うてなあ、食べんかったらなあ、みいちゃんがかわいそうちゃうか!」  
「さあ、行くとするか！」  
坂本さんは、もう少し、この仕事を続けようと思いました。

十二時間の力作ポスター  
人権劇・人権ソングのポスターを、夏休みの期間に十二時間かけて作成した。二人の人物と牛の構図に特に力をいれた。



### 人権教育を考える 深める 理解する授業を各学年で進める

今年度十月、各学年で人権教育の研究授業を実施した。各クラスとも熱心に授業に取り組み、授業が終わってから各自の思いや自らのこれからの行動についての意見を書いた。

#### 一年五組

##### 『自分以下を求め心』

自分より下を見つければ、自分の駄目なところを見つけて改善していくことが大切だと思えました。■うまうまいかないときは、「あの人もできていなかったから」と考えていたけど、今回の授業で、「あの人も頑張っているから自分も頑張ろう」と思うようになりました。■目指せる人のことを思っていて、理想の自分に近づけるようにする。■自分以下を求め心(考え)をやめることの大切さを知った。■これからは他人とではなく、自分と見比べていきたい。■一日一日、目標を立てて過ごしていきたい。■自分と正面から向き合うようにしていく。



#### 二年一組

##### 『夕焼けが美しい』

一人一人に対して平等に接していくことの大切さを学びました。■差別は、時間・夢・命を簡単に壊せるとんでもないものだと思えました。■差別によって文字が奪われた人がいて、文字を学ぶまで夕焼けが美しいと感じられなかったことを思うと、差別はしてはいけないと実感しました。■私は普通に勉強していますが、昔は決してそうではなかったことを思うと感謝しなければならぬ。■文字を学ぶことはものすごく大切だと思いました。

#### 三年六組

##### 『峠』

周囲の意見と自分の意見が異なっても自分の意思を通し、自分の意見に伝えるように人にならなければならない。■差別をなくし、思いやりのある人になる。■おかしいと思ったことは、「おかしい」と言える人になり、差別のない社会にする。■噂だけで決めず、実際に見



#### 人権映画祭 あぜみちジャンピン!



たり会ったりしてから決めることができる人になりたい。■個人を尊重し、相手を信じ、間違っていることには間違っていると言え人間になりたい。■自分が嫌なことを相手にしない人に、またさせない・なくす行動ができる人になりたい。

耳が聞こえない主人公がそれでもダンスをして頑張っているところがすごかったです。私は最後のシーンが一番好きです。全員が楽しくダンスをして、皆が助け合うところが、主人公の母がダンス大会の会場に行ったときも感動しました。何回失敗しても皆で助け合っ

ころから、仲間の大切さを感じました。本当の絆を感じた作品でした。(二年) ■優紀さんは人の目を気にせず自分らしく生きていくところはとても素敵でした。自分を隠さず自分らしく堂々と生きていくことの大切さを知りました。(三年) ■障がいがある人に関わらず人には優しくしたいといじめのシーンから僕は、嫌だし、駄目だと思つた。優紀さんが皆の力を借りて最後まで踊っている姿を見て僕は、とても素晴らしい絆だと思つた。友達が困っていたら助け、自分が困ったら皆に助けを求めようという助け合うことが必要だと学んだ。(三年)



映画のHPより

### いじめ防止標語・人権標語

- 人それぞれの個性が輝いている
- その発信 知らない誰かを傷つける
- 思いやり 世界中で増やそうよ
- 見て見ぬふりの自分より 止める自分が美しい
- いじめを見るだけでなく これも立派ないじめです
- 勇気だし 発した言葉で
- 自分と相手の未来が変わる
- その行動 いじめの始まりになっていない?
- 職業に 性別なんて関係ない
- コロナ差別 ひとごとだとは限らない
- 傷ついた相手の心 もう遅い
- 肌の色 違っただけで何が悪い
- なくそう 差別につながるその言葉
- その行動 当たり前だと思ってる?
- 心の傷 手当てをしても治らない
- 無責任 言葉の刃向けないで
- 今していること本当に正しいと 言い張れる?
- 投稿は ボタン一つで武器になる

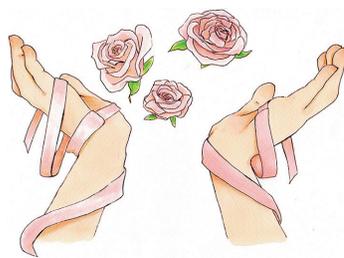
### 友人の人権作文を読んでもう一度自分を考えよう

#### みんな違う

「肌の色が違う」「髪の毛がみんな違う」「髪の色がみんな違う」「言われると心が痛くなる言葉を、同級生や見知らぬ人たちから数えきれないほど言われてきた。小さい頃は、自分が何かやってはいけないことをしたから、このようなこ

とを言われるのだと思っていた。しかし、年齢が上がるにつれ、何かおかしいなと思いはじめた。「僕は何も悪いことをしていない。それにもかかわらず周りから嫌なことを言われていく」と。

それでも、小学校の高学年になると、僕を嫌な気持ちにするような言葉を投げかけられることはほとんどなかった。中学校に進学すると、初めて会う級友も多く、少しは何か言われると覚悟していたが、心を痛めるようなことは言われなかった。なかには、「何人?」「どこで生まれたん?」など質問する人もいたが、もともと自分が逆の立場ならば同じように質問をしていくかもしれないからだ。



中学校生活にも慣れて、友達もいっぱいできてきたときだった。「○○カレー知ってる?」とある友達に聞かれた。僕が日本生まれで日本にずっと住んでいることを知っているはずなのに。「何で?」と聞き返すと、「すぐビックリした答えが返ってきた。だって外国人やん」。シヨックというよりびっくりという気持ちの方が大きかった。僕は、ずっと日本生まれ日本育ちと言っているのに聞かずに、周りの人は、外国人だという印象のままなのだと。そして、時間が経つにつれて僕の感情は、シヨックで悲しいというものに変わっていった。

なぜそういうことを言うのだろうと思つていたときに出会った本が、星野ルネさんの「アフリカ少年が日本で育つた結果」と鈴木武蔵さんの「ムサシと武蔵」だ。それぞれカメルーンとジャマイカに生まれ、日本で育つた方々だ。この二冊の本に共感できることがたくさん書いてあった。特に星野ルネさんが、小さい頃落ち込んでいた自分に向けて書いた手紙にはすごく感動した。特に「あなたには、あなただけの美しさがある。みんなと同じじゃなくていい。自分が持つて生まれたもの、すばらしさに、いつか気づく日が来るから」という言葉が心に残った。まさしく僕がそのとき言っていた欲しかった言葉で埋め尽くされていくからだ。

今も、他の人と少し違うだけで嫌なことを言われていてる人が、世界にはまだまだたくさんいるのだとわかった。僕のパングラデシユ人の友達も同じように言われ、苦しんでいることもわかった。一人一人違うところが、あるのに、他の人と違うところが少し目立つだけで特別扱いするのはおかしいと思つた。世界には自分と一緒の人なんていない。みんな違う人だ。だから、自分の肌の色は変えなくてもいい。自分らしく生きれば良いと思つた。

#### 言葉の力

僕たちは毎日言葉を使っている。相手に伝えたいことを話している。そんな当たり前に使っている言葉には大きな影響力や人の心を動かす力が備わっている。「ありがとう」と言われてうれいと思うのもその一つだ。このように僕たちは言葉で相手を笑顔にさせたり、喜ばせたりすることができるとも素晴らしい力だ。しかし、一方で相手を簡単に傷つけることもできてしまう。僕は中学生になって悪口や暴言を耳にすることが増えた。おもしろ半分使っている言葉も、相手に届くのは一つ一つの言葉がぐざぐざと心の中につきささる。被害にあっていた人は笑ってごまかしていたが、おそろしく辛かったと思う。笑ってごまかしている姿を見て改めて言葉のこわさを実感した。僕はその人の悲しさを辛さに同情するこ

としかできず、同情を行動にすることはしなかった。後から加害者に、「なんでそんなこと言うん」と言葉で伝えていけば、と思つたが、そんな勇気がなかった。せめて、これからは、自分が相手と話すときは、相手が言われてうれしくなるような言葉を使いたいと思つた。この体験から、言葉を使うということは危険で、使い方を間違えると、相手を精神的においつめ、最悪の場合相手に自殺を選択させてしまうことを知った。だから、一言一言の言葉に責任を持ち、相手の気持ちを考えることを大切にしないといけないと思つた。

今、僕は大切にしている言葉がある。それは「ありがとう」だ。物を拾ってくれたとき「ありがとう」、手伝ってくれたとき「ありがとう」。シンプルだが、誰でも言われるとうれしくなり、言つた自分もうれしい。この言葉が聞こえたと、心が温まる。だから、僕は「ありがとう」を大切にしたい。そして、みんなにも大切にしたい。